

## ◎特集1

# スタートした「市民病院」を誌上大公開!

# “思いやり医療”で愛される病院へ

2つの公立病院の施設集約のため、1月18日から進められていた病院施設の改築が、検診センターを除いてほぼ完了しました。リニューアルに先がけて、2月から新環境で外来診療を開始していた産婦人科に続いて、3月29日には血液透析センターも稼働。さらに4月1日からは、平山二郎病院事業管理者のもと、新体制での病院運営が始まりました。

課題とされていた心臓外科外来の休止を補うために、循環器内科の医師と設備の拡充も図られ、快適で安心して来院できる環境が整いました。そこで、今号では、新しくなった病院を診療科の医療設備とともに紹介したいと思います。



4月1日、市民病院発足のセレモニーでテープカットが行われた



# 循環器医療を支える新環境

## 第1CT室



64列マルチスライスCT

64列マルチスライスCTを、塩嶺病院から移設しました。

このCTは、機械が1回転する0・35秒の間に64枚の画像を撮影し、三次元表示することができ、超高度な機種で、市立岡谷病院に従前より設置されている16列と比べて、より正確なデータを短時間で取得することができます。

たとえば、頭部から下肢までの広範囲を検査したとしても、ほぼ1回の息止めの間、10数秒程度で撮影は終了。一度の検査で最大限の情報を引き出します。患者さんの負担が軽減されるほか、解析時間が大幅に短縮できることも大きな利点です。

心臓、大動脈、腹部、頭頸部、下肢など全身の血管に対して、血管造影検査と同等の情報を得ることが可能で、立体的に映し出されたデータからは、病変のあるなし、場所の特定にとどまらず、心筋梗塞や冠動脈狭窄の状態把握などが容易に行え、よりよい医療の実現が期待できます。



モニタールームよりCT室を望む

## 心臓カテーテル室

循環器内科の拡充を受けて導入した血管造影装置（アンギオグラフィ）を使って、血管を造影し、カテーテルと呼ばれる細い管を血管内に挿入して病気の検査・治療を行います。

心筋梗塞や狭心症などにより詰まってしまった血管を広げる（バルーン療法）、傷ついた血管を止血し補強する、血栓を溶かしたり、悪性腫瘍を死滅させるなどの治療において、外科手術を行わず、できる限り体に傷を残さず（腕や太ももの付け根に数ミリの傷が残る程度）に、血液の流れを正常に戻す処置が行えます。

現在、日本では心臓カテーテル治療法が心臓バイパス手術の約6倍以上も実施されています。



不整脈の治療にも効果を発揮

4月8日、第1回目の手術のようす



## ICU・CCU

これまで塩嶺病院で実施されてきた循環器疾患に対する高度な医療技術を引き継ぎ、重篤な患者さんへの集中的な治療看護を行います。

ICUとは、集中治療室のことです。内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者さんをここに収容し、強力かつ集中的な治療をします。

CCUは、冠状動脈疾患管理室と訳されるとおり、主に心筋梗塞などの冠状動脈疾患の急性危機状態の患者さんを収容し、嚴重かつ細かなモニター下で持続的なケアを進める部門です。



集中的な治療看護体制が充実

循環器系のこれら3施設は、速やかな診断と処置のため、動線を考慮して配置しました。救急搬送された患者さんは、第1CT室の64列マルチスライスCTで診断を受け、直ちに処置が必要な場合には、隣接のエレベータで2階の心臓カテーテル室へ。さらに処置後は、隣接されたICU・CCUで集中的な看護が実施されます。

# そのほかの施設も充実

## 第3 X線テレビ室

従来の2台のX線テレビ（レントゲン）設備に、塩嶺病院から移設の1台を加えた3台で診療を行います。新たに設置した機器により、X線透視下での大腸のファイバースコープ検査など、消化器内科の精密検査が受けられるようになりました。痛みもありません。内視鏡映像は瞬時に液晶画面で確認できるので、納得の診療を受けることができます。



第3X線テレビ室内部

## 内視鏡室

塩嶺病院から移設の内視鏡装置を含め、同時に2台が稼働できる態勢を整えました。内視鏡による胃部などの検査（胃カメラなど）を実施し、病気の予防や病巣の早期発見に努めます。



内視鏡室

## 血液透析室

腎臓の機能が低下したり、障害されると、尿量が少なくなったり、老廃物が排泄されない状態に陥り、重くなると尿毒症状が出てきてしまいます。そこで、急性腎不全、慢性腎不全の患者さんを対象に、ダイアライザーといわれる人工腎臓を使って、余分な水分や老廃物を身体の中から除去する治療を行います。

これまで岡谷病院に10床、塩嶺病院に20床あった設備を集約して、新たに最大30名の患者さんが同時に治療を受けられる血液透析室を整備。明るくゆったりとしたスペースに、安心の治療環境が実現しました。休憩室や更衣室も広く確保されています。



広々とした血液透析室



ダイアライザー

## 緩和ケア病棟

がんなどの疾患により、いのちや人生を脅かされている患者さんをケアする病棟を、塩嶺病院内に、全個室で10床設置しています。痛みを取り除き、身体的、精神的苦痛を和らげる医療、あるいは、さまざまな問題を

さまざま問題を防ぎ、早期に発見し、的確に対処する看護により、快適を重視した療養生活の場を提供。尊厳を持って自分らしく生きる患者さんとそのご家族をサポートします。



温もりのある生活環境を整えた個室



談話室

## 療養病棟

岡谷病院から塩嶺病院へ、施設集約により移設。病床は43床で、その内訳は介護保険を利用して入院する介護療養型31床、医療保険を利用して入院する医療型が12床となっています。

病棟内には、患者さんが集まる談話室があります。そろって食事をしたり、会話や各種レクリエーションを楽しんだり、景色を眺めたりすること、病状の安定や可能な範囲での自立を促し、元気に在宅復帰できることをめざしています。



眺めのいい談話室

車いす対応に改修された浴室



## ヒューマンネットワークでソフトも進化

### 安全安心な医療の実現に向けて

#### ◎医療総合相談室を設置

患者さんやご家族からの相談に、中立な立場で応える「医療総合相談室」を設置。受診・受療の援助、療養中の心身のケア、社会的問題や経済的問題の解決に向けた調整などにすみやかに対応し、医療安全の管理を充実させます。

ナースステーション



### 地域連携の強化へ

地域の医療機関(開業医・病院)、福祉施設や介護施設、医療ソーシャルワーカーらと連携を図り、関係性を密に

- ◎円滑な検査、診療、入院の態勢づくり
- ◎紹介元の医療機関への情報フィードバック
- ◎切れ目なく医療を継続するための連携パス構築
- ◎紹介患者率アップと予約システムの改善
- ◎退院後(転院、在宅医療、社会復帰)の支援を推進。

トータルなケアと援助により、岡谷市の市民病院にふさわしい、医療環境の確立をめざします。

## 地域の中核病院として「思いやり医療」を実践!



平山二郎院長  
(岡谷市病院事業管理者)

市立岡谷病院と岡谷塩嶺病院は、施設集約によりひとつの病院に生まれ変わりを、新たなスタートを切りました。

岡谷病院には糖

尿病センターのほか循環器センター、呼吸器センターが加わり、新たな検診センターも完成間近、総合病院としての機能は飛躍的に充実しています。また、塩嶺病院は緩和ケアと療養に特化され、自然環境を

生かした病棟機能を担うことになりました。

今後は、新病院建設基本構想を視野に入れつつも、新生の市民病院としての使命を果たし、患者さんを中心に、

- 「救急医療の充実」
- 「安全安心な医療の提供」
- 「地域連携の推進」

を図り、よりよい医療を展開していきます。どうぞ、よろしく願います。

問合せ ● 岡谷市民病院 ☎23-8000